

1-B-4 重症肺炎に対するNO吸入および低体温療法

和歌山県立医科大学高度集中治療センター

山家弘雄，篠崎正博，東岡宏明，中 敏夫，
西村好晴，小野知美，森永俊彦，友淵佳明

今回我々は、重症肺炎の3症例に対して高濃度酸素吸入あるいは高気道内圧による肺の障害を避けるために、NO吸入療法および低体温療法を併用し効果的であったので報告する。

症例1：5歳、女児。Acute Lymphatic Leukemiaにて強化療法後、呼吸不全となり、小児科病棟にて約1ヵ月間人工呼吸管理（FIO₂ 1.0, PEEP 10cmH₂O）されたが、呼吸不全が改善しないため、当センター入室となった。

症例2：3歳、女児。免疫不全と診断されていたが、肺炎を合併し小児科病棟に1週間入院した後、人工呼吸管理のため当センター入室となった。

症例3：58歳、男性。肺炎にて近医入院するも、肺炎および低酸素血症が増悪し、CMVモード、FIO₂ 1.0、PEEP 10cmH₂OにてPaO₂ 60torrと低下したため、当センター入室となる。

これら3症例に対して、NO5ppmを吸入させ、34℃前後の mild hypothermia を施行し管理した。

結果：症例1は著明なRIの改善をみたが、NO吸入から離脱できなかった。肺は器質的な変化を残し、呼吸不全にて40日後に死亡した。症例2はNO吸入および低体温療法にてRIが著明に改善し、2週間後には呼吸器から離脱でき、救命できた。症例3はNO吸入と低体温療法によりRIが改善し、肺には器質的な陰影を残したが、呼吸器から離脱でき、救命できた。（経過表参照）

考察：症例2及び症例3は当センター入室前の呼吸管理において、比較的、高濃度酸素や高気道内圧の時間が短く、NO吸入と低体温療法が奏効したものと考えられた。しかし、症例1においては、約1ヵ月の高濃度酸素、高気道内

圧での呼吸管理による肺の器質的な変化が重度であったため、NO吸入および低体温療法が奏効したにもかかわらず救命できなかったものと考えられた。

結語：一酸化窒素（NO）吸入および低体温療法の併用は、肺での酸素化能を改善しFiO₂を低下させることが可能である。

NO吸入と低体温によるRIの変化

